

令和5年度 第2回富士宮市少子化対策推進本部会議

日 時 令和5年8月31日（木）
午後3時～

場 所 庁議室

次 第

1 開 会

2 本部長あいさつ

3 議 事

(1) 第2回及び第3回富士宮市少子化対策推進本部幹事会の協議内容について

(2) 富士宮市の少子化の現状分析について

(3) 新たに実施を検討している少子化対策関連事業について

4 その他

5 閉 会

<添付資料>

- ・ 第2回富士宮市少子化対策推進本部幹事会 議事録

資料1

- ・ 第3回富士宮市少子化対策推進本部幹事会 議事録

資料2

- ・ 富士宮市の少子化の現状分析

資料3

- ・ 新たに実施を検討している少子化対策関連事業

資料4

令和5年度 第2回富士宮市少子化対策推進本部幹事会 議事録

日 時：令和5年6月27日（火）午後3時00分～午後4時20分

場 所：市役所6階620会議室

出席者：企画戦略課長、地域政策推進室長、企画調整係長、企画戦略課課員
広報広聴係長、工業振興・労政係長、福祉企画係長、子育て支援係長、母子保健係長、学事係長、地域政策推進室員

次 第：

1 開会

2 幹事長（企画戦略課長）挨拶

3 議事

(1) 「こども未来戦略方針」の概要について

・・・事務局（企画調整係長から概要説明）

(2) 少子化対策関連事業（県単独補助事業）について

・・・担当部署（地域政策推進室、健康増進課）から事業概要説明

4 その他（自由意見）

【出会い・結婚への支援】

- ・「宮恋」を実施しているが、そのような場に参加しない人（できない人）や、違った対象者への出会い創出支援が必要ではないか。
- ・社会福祉協議会で結婚相談を行っていたり、県が運営するマッチングアプリなどがある。
- ・公共が運営しているイベントやアプリに対しての信頼感は高いと聞く。
- ・婚活イベント以外での周知。
- ・過去に勤労青少年ホームで実施していたような趣味などのつながり。
- ・まずは結婚がないと始まらない。
- ・昔と価値観が変化している。出会う機会の減少(コロナ禍・多様化・勤労青少年ホーム・企業同士の交流を減)。
- ・ゆるいマッチング。飲み会の減小。
- ・企業が独自に社内で婚活イベントを実施した例もある。

【雇用環境の改善】

- ・父親の育児参画支援。

- ・男性育児休業制度の利用者へのインタビューで、育休を取得した人の職場のケアやフォローについても（テルモなど）必要という話があった。育休を取得した人がいる場合、同じ職場の人に負担を強いるため手当を支給する会社もある。
- ・男性の育児休業取得により、母親の負担が増えるなど、育児に対する意識のズレが生じている現状がある。
- ・男性の育休も必要だが、母親が手伝ってほしい時に休めるような体制があったら良いのでは。（子の看護休暇や時間単位での休暇取得が可能となるようになど）

【移住・定住の促進】

- ・子育て世代の呼び込み、PR
- ・チャレンジハウス
- ・子育て世代が移住したくなるような施策や支援があると良い。
- ・移住のポータルサイトの活用。

【子育て支援】

- ・他の世代にもわかりやすい情報発信→ライフサイクルに合わせての支援がわかるようなもの（ロードマップ）を作成したらどうか。
- ・高齢になると妊娠・出産が難しくなる。このことを学校で教えていない。3月に通告があったが、教育の中でライフサイクルを意識する機会がない。
- ・児童手当拡大などが効果的だと考える。東京は子ども1人5000円/月などやっている。市では財源的に厳しいが。
- ・お金をもらえることで子供を産もうと思うか。経済的負担軽減は2人目・3人目のきっかけとなりうる。しかし子供を持たない夫婦が持とうと考える施策も両方やっておく必要あり。
- ・手当が本当に子育てに使われているのか疑問である。国としては少しでも余裕を持って育ててほしいという考えだと思うので、それが子を持つきっかけになればと考えていると思う。
- ・他の世代からの事も考えると分かりやすい見え方が大学・医療費、給食費・教育費など無償化されると良いが、直接結婚には結び付かない気がする。

5 事務連絡

事務局から、

①少子化対策に関連する企業、団体

②各課で少子化対策を進めていくうえで、利用できそうな補助金や交付金
以上2点についての情報を今後調査させていただく。

6 閉会

- ◆今回は意見が出なかったが、保育士確保関連について、県の調査では多くの市が取り組んでいる。本市の取組は？
- ◆大学生など若い世代の結婚についての考え方を聞いてみたい。
- ◆情報の発信の仕方。子育てに力を入れているという発信など強く本市の魅力を発信できると良い。

令和 5 年度 第 3 回富士宮市少子化対策推進本部幹事会 議事録

日 時：令和 5 年 7 月 26 日（水）午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分

場 所：市役所 庁議室

出席者：企画戦略課長、地域政策推進室長、企画調整係長、企画戦略課課員
広報広聴係長、工業振興・労政係長、福祉企画係長、子育て支援係長、母子保健係
長、学事係長、地域政策推進室員

次 第：

1 開会

2 幹事長（企画戦略課長）挨拶

3 議事

(1) 第 2 回幹事会議事録からの振り返り：幹事長から説明

(2) 本市の少子化の現状分析：事務局（企画調整係長）から説明

- ・ 25 歳～39 歳の未婚率が高い（特に男性）
- ・ 県平均と比べるとグラフが小さく且つ歪な形をしている。

(3)少子化対策の施策の検討について（自由討議）

【出会い・結婚支援】

- ・（女性が輝くまちづくり推進室）令和 6 年度から、婚活事業の回数を 1 回増やしたい、実施計画に挙げる予定。2 回の「宮恋」に加え、婚活のカリスマと呼ばれる荒木直美さんを招いて、セミナー等を企画したい。
⇒婚活イベントに積極的に参加できないが、出会いが欲しい、結婚したいと思っている人への支援も考えなければいけない。新たなこと（内容）にチャレンジすることも検討してほしい。
- ・（女性が輝くまちづくり推進室）「宮恋」こそ、富士宮ならではの婚活事業だと考えている。自然を感じながらラフティング+BBQ を楽しくでき、コロナ前は、県内外から多くの応募者があった人気の事業。今年 6 月に第 1 回を実施した際も、17 組中 11 組がマッチングした。「宮恋」の年 2 回の実施は継続したい。
⇒結婚を望む人の中には、アウトドアが苦手であることや時間が長いなどの理由から、参加しない人もいるのではないか。ラフティング+BBQ 以外の企画も試しに行ってみた方が良いのではないか。
- ・ 民間会社を通じて募集するなど、いろいろな企業に呼び掛ける工夫が必要ではないか。

- ・入口を工夫する必要がある。庁内全体で検討していく。
- ・年2回の単発イベントだけでなく、継続的に出合いを支援する取組も必要ではないか。

【雇用環境】

- ・(健康増進課) 男性の育児休暇の取得が進んでいるが、母親の意見を聞くと一概にいいことばかりではないこともある。
- ・育児休暇を取得すると、会社に残った人達に負担がかかる。不満も生まれがちだと思うが、会社に残った人に手当などを支給できれば、周りも子育てを応援しようという気持ちになるのではないか。
- ・(健康増進課) 県の「新・少子化突破展開事業」の補助申請が採択され、「父親の育児参画応援事業」を実施する予定。冊子作製を予定しているが、それを企業に配るなどしていきたい。配るだけでなく、富士宮市が取り組んでいる姿勢をPRすることも大事。
- ・(広報課) 広報ふじのみや(創宮)に特集を組み、富士宮市が安心して出産・子育てできるまちであることを積極的に周知する。

【移住・定住】

- ・(地域政策推進室) 若い世代に呼び掛けていきたい。昔は、「田舎暮らし」をしたくて移住する人が多かったが今は違う。ニーズが変わってきており、全国で若い世代を呼び込む競争となっている。
- ・(地域政策推進室) 県の「新・少子化突破展開事業」の補助申請が採択され、「若者世帯を対象とした移住定住推進事業」と「移住体験チャレンジハウス運営事業」を実施する。

【子育て支援】

- ・(子ども未来課) 子ども医療費助成について、18歳まで無償とするよう実施計画に挙げる予定。
- ・(子ども未来課) すでに「宮っ子子育てガイド」をゼロ予算で6,000冊発行しており、内容も充実しているため、より一層の活用も呼び掛けたい。
- ・どの市町も子育て支援には取り組んでいる。特色ある施策を実施する必要がある。

【その他】

- ・(広報課) 年4回の市政モニターアンケート制度を活用し、少子化問題についてアンケートをとってみたいかがか。世論調査ではないが、参考に市民の声を聴くことができ有効な策につながるかもしれない。

4 その他(少子化に関係する団体・NPO・企業情報等)

- ・各課から報告いただいた、少子化対策に取り組む関係団体を支援することも立派な少子化対策だと思う。
- ・今、婚活アプリ、イベントなど数多くあるが、市が推していることをPRすることで、信頼感が増し、利用する人も増えるかもしれない。

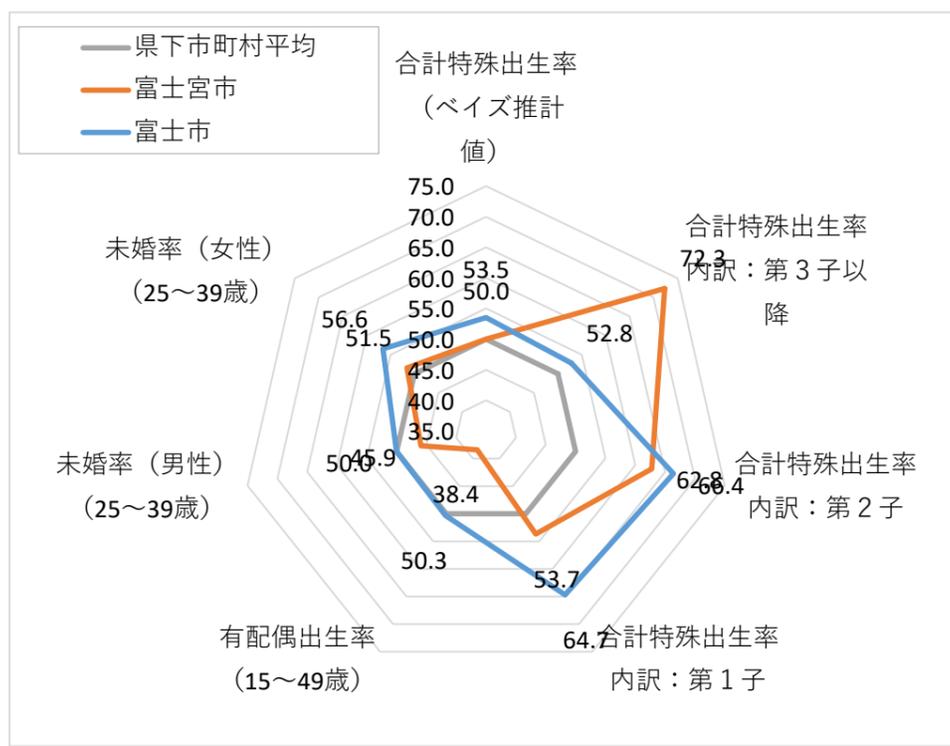
5 閉会

富士宮市の少子化の現状分析

データ名	合計特殊出生率(ベイズ推計値)	未婚率(女性)(25~39歳)	未婚率(男性)(25~39歳)	有配偶出生率(15~49歳)	合計特殊出生率内訳:第1子	合計特殊出生率内訳:第2子	合計特殊出生率内訳:第3子以降
単位	-	%	%	対1000人	-	-	-
全国	1.43	38.5	50.1	78.5	0.66	0.53	0.24
静岡県	1.54	36.1	51.7	68.1	0.61	0.51	0.24
小松市(石川県)	1.69	34	49.1	81.2	0.76	0.65	0.28
各務原市(岐阜県)	1.59	33.5	48.7	63.9	0.69	0.67	0.23
三島市	1.49	37.1	51.2	64.4	0.65	0.58	0.26
富士宮市	1.54	35.7	52.9	61.2	0.64	0.58	0.32
富士市	1.58	34.4	51.7	68.3	0.73	0.6	0.25
焼津市	1.41	37.6	50.8	65	0.65	0.51	0.25
掛川市	1.64	32.9	50.3	72.8	0.71	0.64	0.29
藤枝市	1.49	35.1	48.2	61.7	0.66	0.55	0.27
袋井市	1.76	30.5	48.1	73.1	0.87	0.6	0.29
長泉町	1.8	28.2	40.9	78.4	0.83	0.73	0.24
刈谷市(愛知県)	1.8	31.7	50.9	79.4	0.93	0.63	0.24
小牧市(愛知県)	1.58	36.8	54.4	64.1	0.73	0.56	0.29
東海市(愛知県)	1.86	29.4	48.4	72.9	0.87	0.7	0.28
彦根市(滋賀県)	1.57	34.6	50.6	67.6	0.71	0.59	0.27
長浜市(滋賀県)	1.58	37.4	52.4	77.3	0.63	0.66	0.3
東近江市(滋賀県)	1.61	33.8	50.5	74.4	0.73	0.58	0.3
尾道市(広島県)	1.55	36.8	51.2	69.6	0.64	0.57	0.34
防府市(山口県)	1.7	32.3	45.7	77.8	0.77	0.57	0.36
周南市(山口県)	1.64	34.7	50.7	67.5	0.71	0.61	0.32
丸亀市(香川県)	1.7	33.1	45.2	74.3	0.69	0.69	0.31
新居浜市(愛媛県)	1.75	31	46.8	71.5	0.73	0.67	0.35
各市平均	1.63	33.8	49.5	70.8	0.73	0.62	0.29

分野別平均偏差値(静岡県を50とした場合)

データ名	合計特殊出生率(ベイズ推計値)	未婚率(女性)(25~39歳)	未婚率(男性)(25~39歳)	有配偶出生率(15~49歳)	合計特殊出生率内訳:第1子	合計特殊出生率内訳:第2子	合計特殊出生率内訳:第3子以降
小松市(石川県)	63.2	58.1	58.8	72.0	68.4	75.5	61.2
各務原市(岐阜県)	54.4	60.0	60.2	42.9	59.8	79.1	47.2
三島市	45.6	46.1	51.7	43.8	54.9	62.8	55.6
富士宮市	50.0	51.5	45.9	38.4	53.7	62.8	72.3
富士市	53.5	56.6	50.0	50.3	64.7	66.4	52.8
焼津市	38.5	44.2	53.1	44.8	54.9	50.0	52.8
掛川市	58.8	62.4	54.8	57.9	62.2	73.7	63.9
藤枝市	45.6	53.9	61.9	39.2	56.1	57.3	58.4
袋井市	69.4	71.6	62.2	58.4	81.8	66.4	63.9
長泉町	72.9	80.5	86.7	67.3	76.9	90.1	50.0
刈谷市(愛知県)	72.9	67.0	52.7	69.0	89.2	71.9	50.0
小牧市(愛知県)	53.5	47.3	40.8	43.3	64.7	59.1	63.9
東海市(愛知県)	78.2	75.9	61.2	58.1	81.8	84.6	61.2
彦根市(滋賀県)	52.6	55.8	53.7	49.2	62.2	64.6	58.4
長浜市(滋賀県)	53.5	45.0	47.6	65.5	52.4	77.3	66.7
東近江市(滋賀県)	56.2	58.9	54.1	60.6	64.7	62.8	66.7
尾道市(広島県)	50.9	47.3	51.7	52.5	53.7	60.9	77.9
防府市(山口県)	64.1	64.7	70.4	66.3	69.6	60.9	83.5
周南市(山口県)	58.8	55.4	53.4	49.0	62.2	68.2	72.3
丸亀市(香川県)	56.2	58.9	54.1	60.6	64.7	62.8	66.7
新居浜市(愛媛県)	68.5	69.7	66.6	55.7	64.7	79.1	80.7

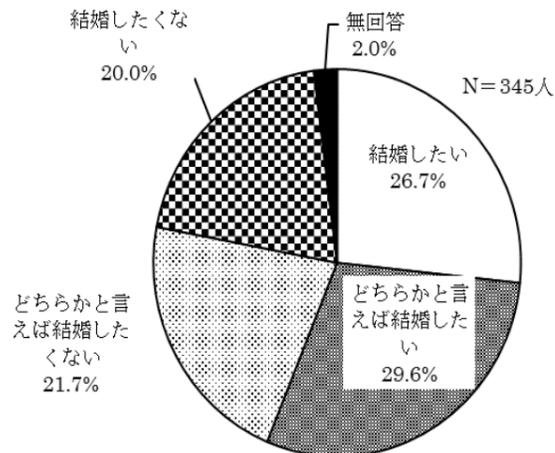


分析

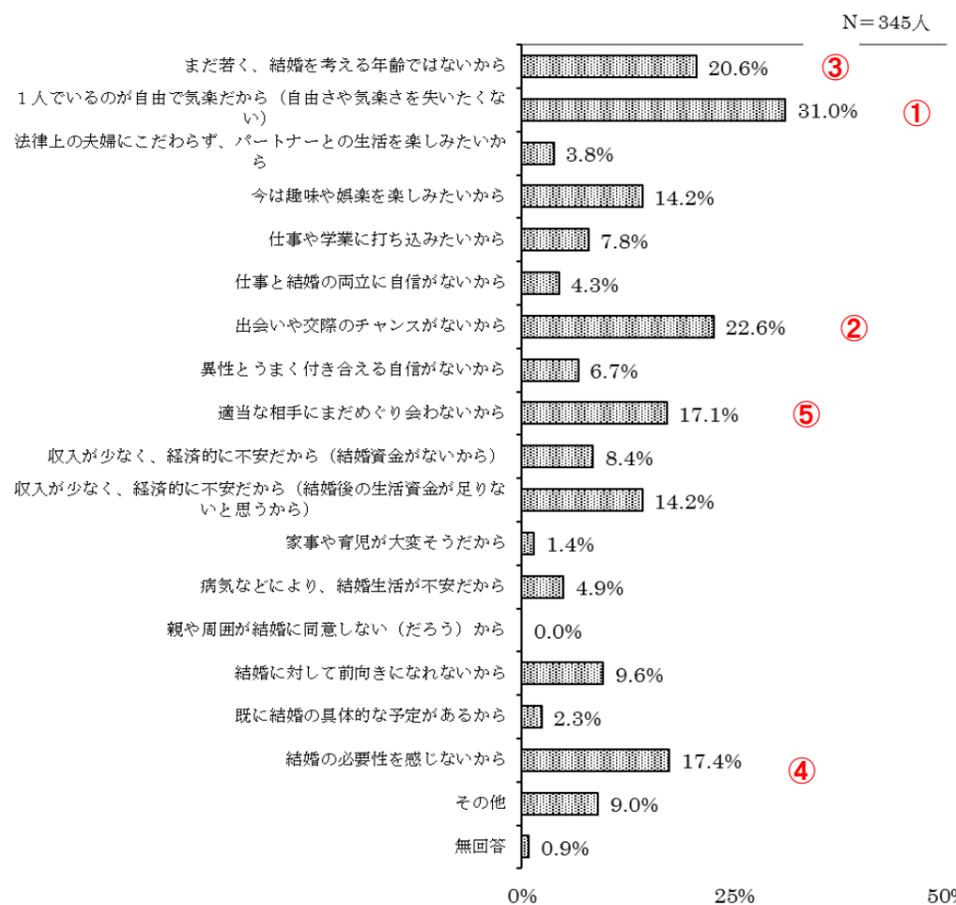
- ・未婚率(男性)の割合が高い、特に男性の未婚率は同規模の市の中でも特に高い。25~39歳男性の52.9%が未婚の現実。
- ・有配偶出生率が低く、同規模の市の中で最下位
- ・合計特殊出生率内訳の第3子以降の率が高く、全国・県平均を上回る。
- ・静岡県の合計特殊出生率と本市は同じ1.54であるが、未婚率の男性が県より高く、合計特殊出生率の内訳はいずれも県を上回っている。

※未婚率は逆向きの偏差値としている(未婚率が低いほど偏差値は高い)

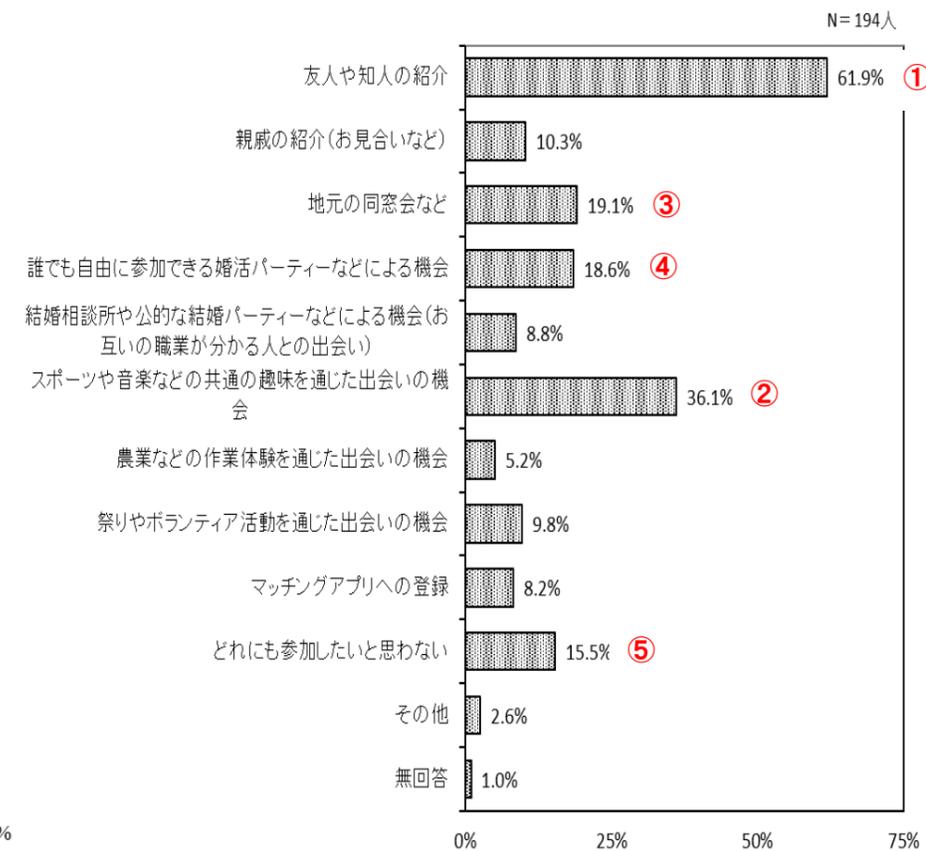
1 結婚したいと思いますか。



2 現在結婚していない主な理由は何ですか。【複数回答】



3 あなたは、つぎのような出会いの機会があれば参加したいと思いますか

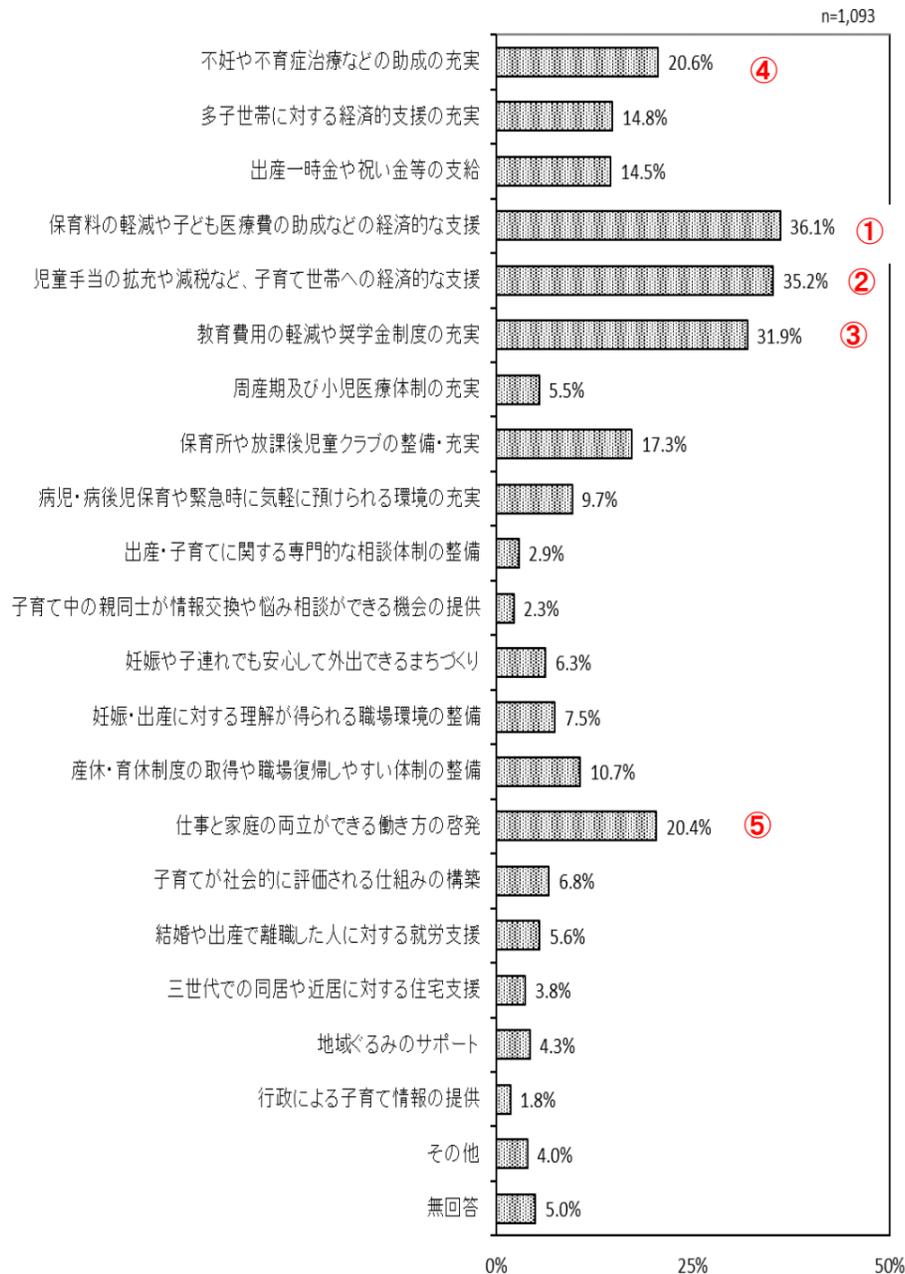


分析：人口減少に関する市民アンケート前回（平成27年8月）との比較

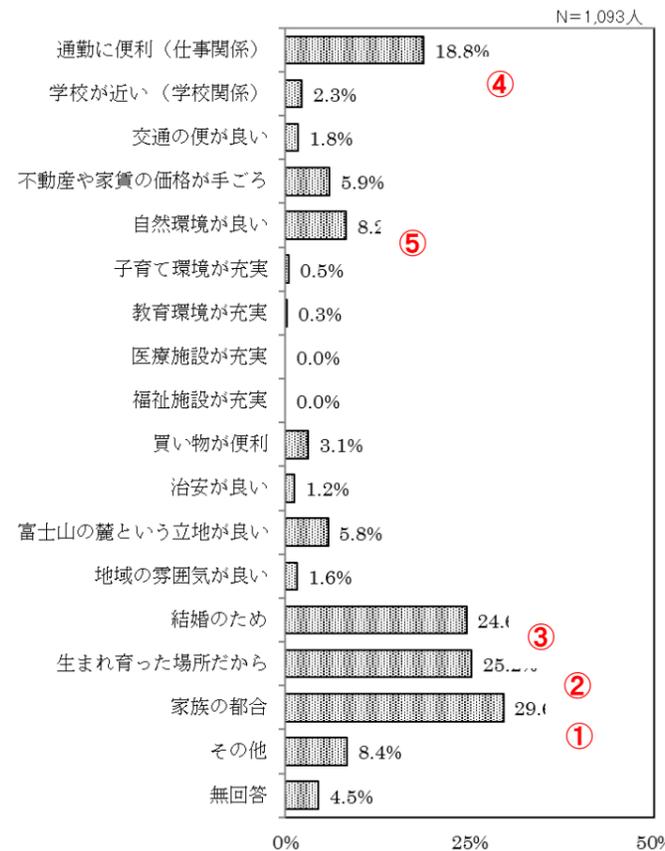
- 1：「どちらかと言えば結婚したい」が最も多く29.6%次いで「結婚したい」が26.7%となった。前回と比較し、「結婚したい」の割合が、21.5ポイント減少し「結婚したくない」の割合が10.6ポイント増加した。
- 2：結婚していない理由は、「1人でいるのが自由で気楽だから」が最も多く31.0%次いで、「出会いや交際のチャンスがないから」が22.6%と多い。前は「出会いや交際のチャンスがないから」が30.7%で最も多かった。
- 3：出会いの機会については、「友人や知人の紹介」が最も多く61.9%次いで「スポーツや音楽などの共通の趣味を通じた出会いの機会」が36.1%となっている。前回と比べて、上位5位までの変動はなかった。

人口減少に関する市民アンケート調査分析 R3. 3月

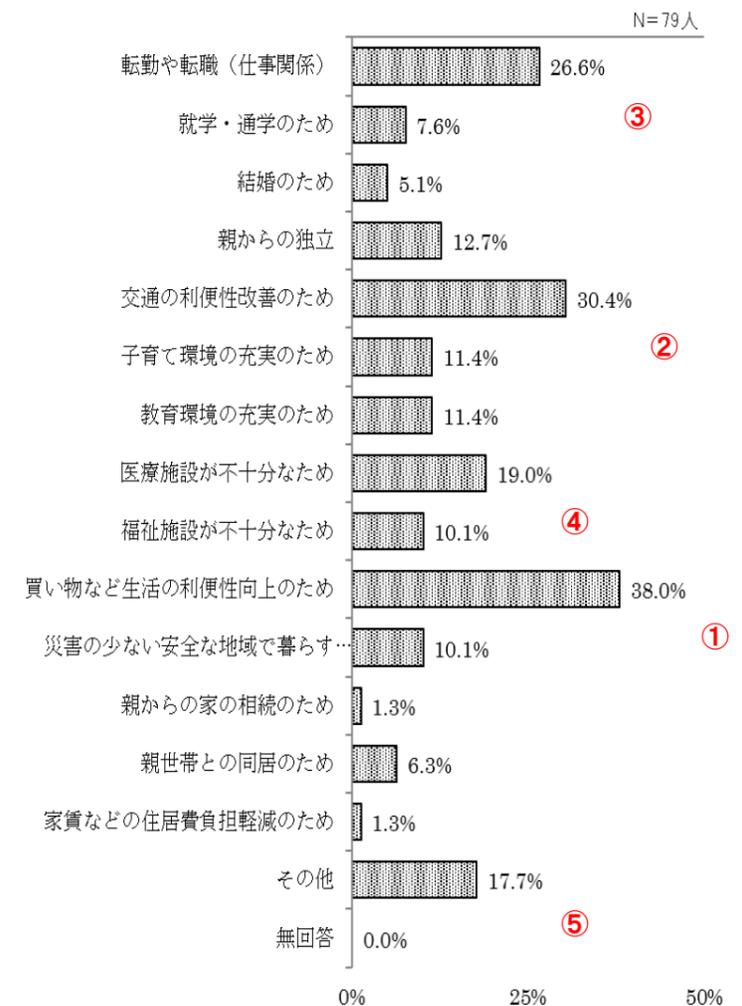
7 出産、子育て支援策として重要だと思うことは何ですか。
(複数回答可)



8 転入してきた方にお伺いします。本市に住まいを選択した理由は何ですか。(複数回答可)



9 市外に引っ越したい理由



分析：人口減少に関する市民アンケート前回(平成27年8月)との比較

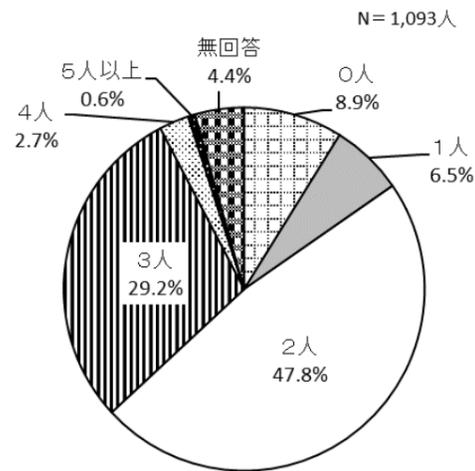
7：「保育料の軽減や子ども医療費の助成などの経済的な支援」が最も多く、次いで「児童手当の拡充や減税など、子育て世帯への経済的な支援」が35.2%、「教育費用の軽減や奨学金制度の充実」が31.9%となっている。順位は若干変わっているものの、1番目から3番目の項目に変化はなかった。前回は8番目の不妊や不育症治療などの助成の充実が4番目となり、関心の高まりを感じた。

8：「家族の都合」が最も多く29.5%、次いで「生まれ育った場所だから」25.2%、「結婚のため」が24.6%となっている。前回と比較し、1番目から4番目の項目と割合には大差は見られなかった。男女別でみると、男性は通勤に便利(仕事関係)が28.5%と最も多く、女性は結婚のためが32.8%で最も多かった。

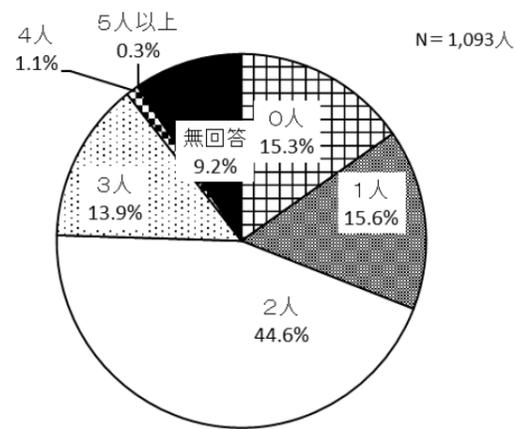
9：「買い物など生活の利便性向上のため」が最も多く38.0%、次いで「交通の利便性改善のため」30.4%、転勤や転職(仕事関係)が26.6%となっている。

人口減少に関する市民アンケート調査分析 R3. 3月

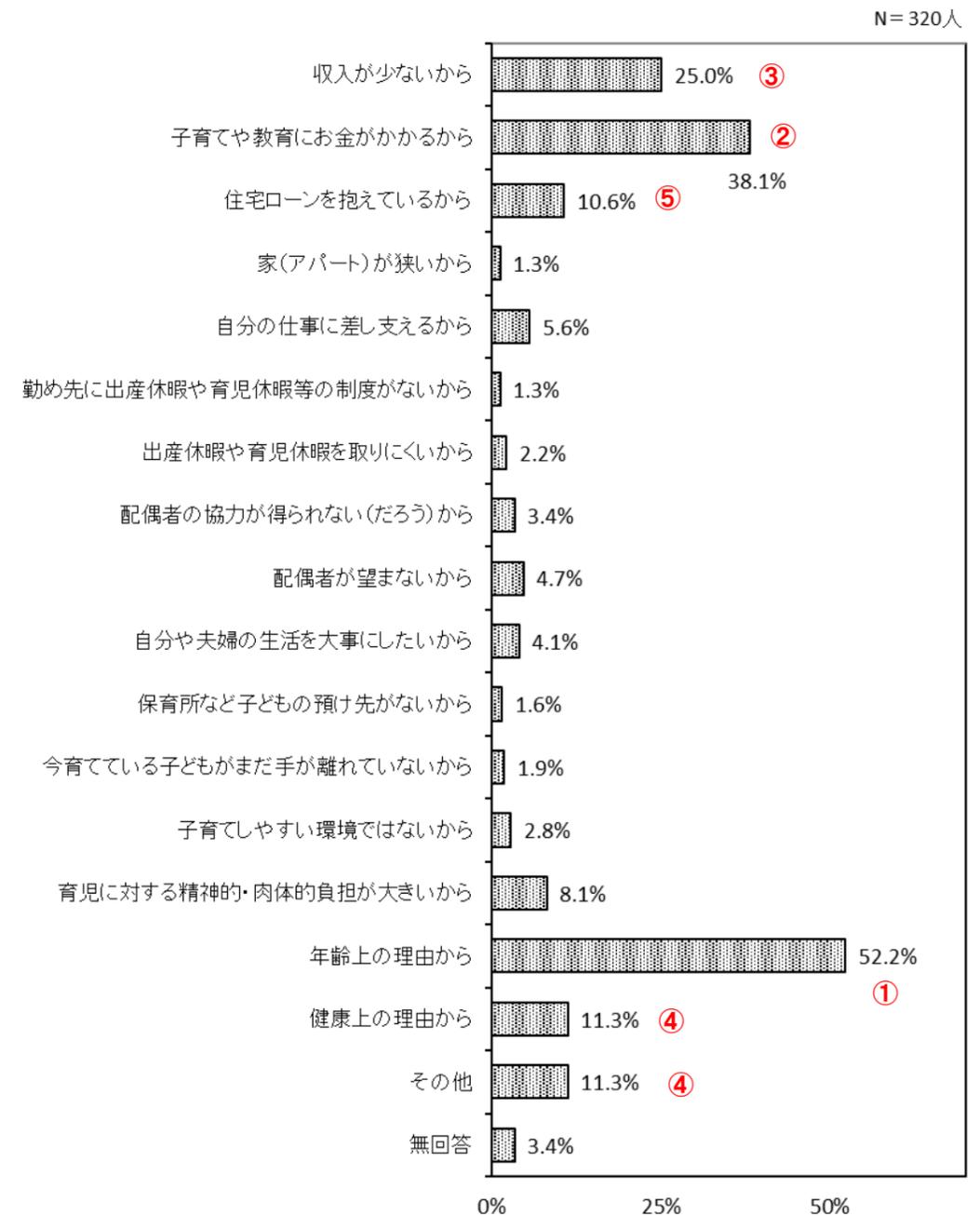
4 理想のお子さんの人数は何人ですか。



5 実際、将来何人のお子さんを持つ予定ですか。



6 理想の子ども的人数より、実際持つ予定の子ども的人数が少ない方に伺います。その理由は何ですか【複数回答】



理想出生数：2.16 → 2.13

予定出生数：1.85 → 1.68

年齢(歳)	20未	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-	計
子ども数(人)	23	131	142	170	275	280	379	825	2,225
親数(人)	14	76	75	81	121	140	170	367	1,044
出生数(人)	1.64	1.72	1.89	2.10	2.27	2.00	2.23	2.25	2.13

※親数は回答者数-無回答者 ※出生数(子どもの数÷親数)

年齢(歳)	20未	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-	計
子ども数(人)	17	105	124	145	214	212	279	568	1,664
親数(人)	13	73	75	80	119	133	162	335	990
出生数(人)	1.31	1.44	1.65	1.81	1.80	1.59	1.72	1.70	1.68

※親数は回答者数-無回答者 ※出生数(子どもの数÷親数)

分析：人口減少に関する市民アンケート前回(平成27年8月)との比較

4、5：子どもの数については、理想とする子どもの数及び将来の予定の子ども数が2人から5人以上までいずれも前回と比較すると少なくなっており0人および1人の割合が増えている。

理想出生数-予定出生数については、前回調査時は0.31だったが、0.45と差が広がっている。

6：「年齢上の理由から」が最も多く52.2%、次いで「子育てや教育にお金がかかるから」が38.1%、「収入が少ないから」25.0%となっている。前回は、「子育てや教育にお金がかかるから」が47.4%で最も多かった。晩婚・晩産化の傾向が進んでいることも影響として考えられる。

新たに実施を検討している少子化対策関連事業

	事業名	内 容	財源（補助率等）	担当課
出会い・結婚	出会い・交流応援事業	・出会い交流イベント（宮恋：ラフティング＋BBQ）2回実施、婚活コーディネーターによる新たな婚活事業の実施	地域少子化対策重点推進交付金（国）2/3	女性が輝くまちづくり推進室
	結婚新生活支援事業	・結婚に伴う新生活のスタートに係る居住費、引っ越し費用の補助。 対象：夫婦の年齢がともに39歳以下で夫婦合計所得が500万未満の場合 夫婦ともに34歳以下60万円（上限）その他30万円（上限）	地域少子化対策重点推進交付金（国）2/3	地域政策推進室
産前・産後	産後ケア事業（短期通所型新設、訪問型拡充）	・助産院に通院して2時間程度の短期支援を受けるメニューの追加 ・訪問型の回数拡大	国補助 1/2	健康増進課
子育て・育児	子ども医療費完全無償化	・令和6年10月から18歳未満の児童に対する子ども医療費を完全無償化することで、子育て世帯の経済的負担の軽減を図る。	県補助 1/2 ～1/4	子ども未来課
	ふじのみやベビーステーション事業（ソフト事業）	・子育てしやすいまちづくり、子育て世代にやさしいまちづくりをすすめるため、高校生向け講座の開催		女性が輝くまちづくり推進室
	ふじのみやベビーステーション（ハード事業）	・ふじのみやベビーステーション事業委託料 ・ベビーステーション施設改修補助		女性が輝くまちづくり推進室
	少子化問題に関する情報収集	・市政モニター制度を活用し、少子化問題について、市政モニターから意見を収集する。		広報課

子育て・育児	結婚・出産・子育て情報の効果的な発信	・広報ふじのみや（創宮）で、安心して出産・子育てできるまちを周知		広報課
		・「宮っ子育てガイド」をゼロ予算で 6,000 冊発行。より一層の活用を図る。		子ども未来課
雇用環境	父親の育児参画応援事業	・父親の育児参画応援ハンドブックを作成し、育児への父親参画の必要性について広く広報する。	ふじのくに新・少子化突破展開事業（県）1/2	健康増進課
移住・定住	移住・定住促進事業	・29歳以下の夫婦に対する移住・定住奨励金の増額（最大 200 万円） ・若者に対する移住プロモーション	ふじのくに新・少子化突破展開事業（県）1/2	地域政策推進室
	地域間交流事業	・若者チャレンジハウス実証実験委託料（施設維持管理・運営費）	ふじのくに新・新少子化突破展開事業（県）1/2	地域政策推進室